

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心も体も元気な子	気付き動き出す	「これがやりたい」「やってみよう」と遊びだす	・保育教諭が子どもの「これがやりたい」を捉えて環境の工夫や援助を行ったことで、自ら遊びだす姿が見られるようになった ・大人がきっかけを作ることによって保育者や友達と一緒に「これしたい」「やってみよう」とする ・子どもが「やってみよう」と言ったことや思いを察して肯定的な声掛けをしている	B	A	・子どもたちが遊び出しやすいように環境を整えられている。整理整頓がされていて、子どもたちに片付けの習慣がつくようにされている	・乳児の時から自分で遊べる環境を作っていく。保育者がそばで見守ることで安全に遊べるようにしていく ・友達と関わって遊ぶ楽しさを体験する中で、自分の思いを伝えたり相手の思いに気付いたりできるように援助していく ・歳児の発達に沿った運動遊びが体験できるように環境を立て、子どもたちがさらに運動遊びを楽しめるように環境を充実させていく ・運動機能を高めるために発達に合わせた遊びを提供するが、危険のないよう挑戦する意欲を大事に見守っていく ・保育の中に散歩を計画的に取り入れ、歩く機会を増やしていく
		自分の考えを表現し、相手の表現を見たり聞いたりする事で、相手の思いに気づき一緒に遊びを楽しめる	・保育者や友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを行動や言葉で表現して伝えようしたり、相手の思いにも耳を傾ける姿がある ・まずは保育者が子どもの話を聞くことを大切にしている ・“友達っていいな”“友達と一緒に楽しい”と感じている様子がある ・友達にも思いがあることを知り、やりとりしようとする姿が見られている	B	A	・子どもたちの表情がとても明るく、安心して生活できていることが伝わってくる。教育と生活が一体化しており、遊びや生活の中に学びがあることがわかる	
		いろんな体の動きを楽しみながら遊んでいる	・生活動線の中にも運動遊びの環境を作ったことで、自然と運動遊びをする経験を重ねることができた ・運動会をきっかけにマルチパネの台、マット、鉄棒、長縄など、様々な動きを楽しむ姿や繰り返しやってみようとする姿がある	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	こどもの発達や経験を把握・共有しひとりひとりの思いに寄り添った援助を行っている	・日々の手立てである「子どもの思いを聞き、興味をとらえる」について、月の振り返りや公開保育で繰り返し検証し、職員が一人一人に寄り添った声掛けや関わりを行うようにした ・クラス会議や園内研修の中でクラスの実態を共有し、一人一人の興味関心を話し合いをし、実態に合った援助(場や素材)を検討してきた	A	A	・みかんの皮を干して足湯をしたり、コンポストを作ったて落ち葉を堆肥にする取り組みは、生活の中で自然・捨てるものを利用するという昔からの知恵の伝承。このような取り組みを今後も大事にしていってほしい	・各学年のクラス保育を伝え合う機会を引き続き設け、園全体で連携を取りながら保育を進めていく ・子どもの姿の語り合いをクラス内でも行う時間を増やしていきたい
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・早寝番保育では個々の健康状態や生活リズム等を伝達・把握することで、子どもが安心して生活できるようにしている ・子どもにとって生活リズムが整う事の大切さを保護者にも個別で伝えていくことを意識している	A	A	・園内研修は、時間のない中工夫して取り組んでいることがわかる。十分に思うが、先生たちのことで満足しない、向上しようとする姿勢が保育をより良くしているのだと思った	・異なる在園時間を考慮し、子どもたちが毎日安心して過ごせるよう今後も職員間で連携していく ・幼児クラスは連絡ノートがないので、受け入れの時の聞き取りを丁寧にしていく
		(3)環境を通して行う教育及び保育	自然と触れ合える場や遊びに取り入れられる環境や機会が用意されている	・外部講師の指導のもと、園庭の自然環境について研修を実施。アドバイスを参考に計画を立て、コンポスト設置や植栽を行い、自然環境の改善をすすめている ・身近な自然に触れる機会を保育者が意識して、意図的な環境設定を行っている ・各クラスで昆虫の飼育をする中で命の尊さや不思議さに触れる体験が一年を通じてできている	B	A	・玄関で昆虫の飼育をしていることがあり、自分たちで飼育することが難しい乳児クラスも生き物に触れられる機会を作っている
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な想定災害の訓練を行ったり、ヒヤリハットを集め環境整備をしたり全職員が意識をもって状況に応じた行動がとれている	・毎月の様々な想定による訓練に加え、小学校への避難訓練を実施した。 ・日々のヒヤリハットや事故報告をその日の夕打ちで共有することで、タイムリーに対処法を考え、改善できる仕組みがある ・全クラスに入るため、災害の時の自分の立ち位置を確認しておくという意識をもちたい	B	B	・園庭の環境改革は始まったばかりということなので、来年度も引き続き環境改善をしていくのとよい	・訓練後に反省を伝える機会を設け、具体的に次につなげる話し合いを行っていく ・ヒヤリハットの周知方法を工夫する ・同じようなケガを繰り返す傾向にある。その都度改善策を各クラスで検討し、周知する
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗い・うがい・ハンカチの使用など繰り返し知らせ、見取っている栽培への関心が、食べる楽しみにつながるよう食育活動をしていく	・手洗い、うがいの意味や目的を知らせながら、最後までしっかりとることを意識したことで、習慣化してきている ・各学年季節の野菜を植え、栽培し収穫したものを食べることで“食”への興味関心が広がり、食べる楽しみへつながっている	A	A	・コドモンでの連絡帳やドキュメンテーションの配信を楽しみにしている。園での様子、取り組みがよくわかる	・自分でやりたい思いを大切にできたりきりげなく援助し、繰り返しの中で習慣づけるようにしていく ・家庭と連携し、手洗いうがいや、ハンカチを携帯し使用することの大切さを伝えていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	支援の会を中心に子どもの特性や関わり方について、公開保育や会に様々な職員が参加し会議等でも共有を図っている	・毎月計画に沿ってハムタロウの会を実施している。反省もセットで行うことで次回への確認もできている ・公開保育を行ったことで、支援方法を見直し、新しい支援のやり方につながった。また、子の特性への理解が園内職員に広げられた ・サポートプランを見合う機会があとよりよい	B	B	・地域の元気クラブ訪問、花育教室、世代交流会など、園の子どもたちと触れ合うことで元気をもらっている。今後も地域とのつながりを大切にしていってほしい	・ケース会議を継続的にを行い、相談できる場を増やす。また、園全体で対応方法を周知する ・年間ハムタロウの会に参加する職員を決め、支援職員以外が計画的に参加できるようにする
5 組織運営	(1)組織体制の充実	責任をもって分掌に取り組みむと同時に、伝達の方法や進め方を工夫し実践している	・分掌で話し合いを進め、幼児会議や乳児会議に議題をおろしながら皆の意見で進められている。特に運動会や発表会など大きな行事の際は分掌が中心となり、全職員で協力して進めることができた ・お願ボードを活用することで、各クラスから依頼された作業をスムーズに進められるようになった	B	A		・分掌ごと今年度の成果と課題を分析し、来年度の計画に活かしていく ・会計年度職員に打ち合わせに出席した職員が口頭で伝え、計画や進捗状況を共有できるようにする
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修計画に基づき公開保育や園内研修を行っている 園外の研修にも積極的に参加・伝達し、保育に活かしている	・公開保育を通して日々の保育を振り返り、様々な職員と意見を交わすことで学びを共有している。また、公開保育での学びを提示することで、研修に参加できなかった職員に共有されている ・参加したい研修の希望を取ることで、誰もが平等に参加できるようにしている	B	A		・職員会議での研修報告を習慣化することで、園全体の学びとなるようにしていく ・引き続き様々な立場の職員が無理のないように園内研修に参加し、学びの場を大切にしていきたい
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	教材研修や環境作りの研修を行い、環境作りをすすめている	・水トークや園内研修、教材研究の学びを活かし、その子どもの興味・発達・季節に沿った園庭やクラス環境の改善を行った。「やってみよう」と思える環境が増え、自ら遊び出す姿が見られるようになってきた ・外部講師を招いて、園庭の環境について協議を進めていくことで環境の改善につながっている	B	B		・研修後の改善された環境構成や保育・それによる子どもの変化についての検証を、研修計画に盛り込んでいく ・園内研修で教材研究をする機会を増やす
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	ICTを活用し、活動のねらいや実践の様子をわかりやすく伝える工夫をする	・日々のドキュメンテーションの中で、写真も活用し、園の教育保育をわかりやすく書くようにした ・連絡帳で、乳児の遊びにも学びがあることをエピソードを通して伝え、保護者に理解してもらえるよう努めている	A	A		・今後も写真を活用して保護者に日々の教育活動をわかりやすく伝える工夫を考え、試していく。また、育ちを共有していく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	年間計画を基に、公開保育や公開授業に参加し、情報の共有を行う。小学生との交流計画に基づき交流の機会をもっている	・公開保育や公開授業に参加し、職員同士の交流を図り、情報交換している ・年長児は小学校との交流を計画し、就学への期待が膨らむようにした ・公開保育や交流を行っていることを保護者に知らせ、園内で行われていることの意義を伝えている	B	A		・他園の公開保育に参加して学んだことを職員間で共有し、環境づくりに活かしていく ・小学校と連携し、探検や交流を複数回行えるよう計画、実行していく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	年間計画を基に、地域の方と交流する機会をもち、地域の方として親しまれる園づくりを行っている	・年9回のおしやべりサロンを計画して、地域の方々に開かれた園づくりを行っている ・地域の方のバンド演奏、スカイクロス、世代交流会、元気クラブ訪問など、交流を実施した ・おしやべりサロンで在園児と交流する機会があったり、園外保育・勤労感謝訪問等を通して、地域の方と触れ合う機会があった	A	A		・来年度も地域の方との交流を計画的に行い、地域に親しまれる園づくりを行っていく ・散歩に出かける機会を増やし、散歩先で地域の方に挨拶することを通して、交流していく